

## ティバウ島生態系修復事業 - PFP 写真報告より -



苗木の写真が多い環境事業で、今回の主役はティラピアの稚魚です。代替収入源を得て、これ以上焼畑や山腹のコーン栽培で「環境を破壊しない!」「熱帯の生態系を守る!」と、島の住民はポリ袋に入ったティラピアからの収入に期待して、飼育技術研修も熱心に参加しています。(イオン環境公益財団助成)

## ナバルタビ織後継者育成研修

ナバルタビ織後継者育成研修2年目の前期研修日誌(8月分まで)が届きました。以下概要です。

**4月: 11-12日** 講師2名(ソーニャ、アナベル)、研修生2名(ジェネリン、シータ)、ナバルタビプロダクション/NTP 役員3名(ノノバート、パトリシオ、スヌリア)で研修打ち合わせ。15-30日 アバカ繊維を梳き、繫いで糸にする工程

**5月: 1-10日** 糸の束をそろえる。13-17日 デザインにあわせて糸を括る。20-31日 括りが終わったアバカ繊維を染める工程。

**6月: 3-14日** 引き続き染めの実習。16-19日 キブラワン町のビラーンフェスタ参加。ナバルタビ織展示。24-28日 織り方指導開始。

**7月: 1-19日** 1対1の指導で織り方実習継続。22-26日 タカラガイを使ったアイロンがけ実習。29-31日 「織りの家」近くの空地開墾。

**8月: 7月末に整地した「織の家」敷地内の畑に、研修生食材用の野菜とアバカの苗木の植栽開始**



ビラーンによる村作りを推進するノノバート。アムグオのあるランダン村の村長選挙に立候補しました。

HANDS 松尾基金で建てた「織りの家」があるアムグオは、ビラーン民族首長家系のノノバート(スヌリアの従兄)による「ビラーンの伝統を守る事業」の拠点で、8月に育成を始めたアバカの畑もノノバートの敷地内にあります。

## ジェマさんのメール報告にみる COWHED 現況

ー 国内市場拡大と不足する縫製担当 ー

**7/10:** HANDS からの注文は縫製担当ピポットに伝えた。この時期、他の組合からの注文に手いっぱい、一部は期限内に届けられないかもしれない。

**8/7:** 先週ダバオのモールで開催された輸出業社対象の展示即売会は、売り上げは今一つだったが、ヨーロッパ向け輸出の情報が得られてよかった。M バッグはヨーロッパで十分売れると評価された。但し、原価を少し下げようという助言された。

**9/10:** アグサデルスル州の NGO に書類フォルダー(ティナラクを一部に使用したもの)を120セット送った。単価は250ペソ。KIWANIS の大会用にも単価100ペソのものを100セットと、1個25ペソのビーズIDホルダー100個注文を受けた。マニラの会社からもアセアン首脳会議のバッグのアクセントに使いたいと赤と生なりのティナラク織16mの注文があった。



会議や研修用「書類フォルダー」は、大量注文が多いので、ピポット一人では間に合わない場合は、簡単な縫製ができる組合員も参加します。9月の220セット受注では、フロリータも活躍しました。

(持っているのは、縫製初心者が縫えるペンホルダーの束)

## ボルール住民組織 BOSDA 短信

ー BOSDA マネージャー・ダンディの報告より ー

Deng 熱を媒介する蚊を減らすため、月1回地域清掃を続けている。共同集出荷は、バナナ222kg、竹串591束とまだ多くないが、個々に売るよりは皆収益が増えた。BOSDAも1,035ペソの活動費が入った。一番のメリットは共同店舗サリサリストアでお米が安く買えること。メンバー以外の村人も利用している。但し、半年たつて離反者も出た。「住民組織は50%が協力してくれればよい方。いい時もあれば悪い時もある」というメルチさん(元 COWHED 組合長。BOSDA の助言者)の言葉を思い出すようにしている。

(9-10月のメールから山崎・要約)